環境影響評価書案審査意見書

「都営辰巳一丁目団地建替事業」に係る環境影響評価書案（以下「評価書案」という。）について審査した結果、東京都環境影響評価条例（昭和55年東京都条例第96号）第57条第1項に規定する意見は、下記のとおりである。

東京都知事
猪瀬直樹

記

第1 対象事業

- 代表する事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
名称：東京都
代表者：東京都知事 猪瀬直樹
所在地：東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
- 対象事業の名称及び種類
名称：都営辰巳一丁目団地建替事業
種類：住宅団地の新設
- 対象事業の所在地
東京都江東区辰巳一丁目2番、3番、8番、9番

第2 意見

本事業の評価書案における調査、予測及び評価は、おおむね「東京都環境影響評価技術指針」に従って行われたものであると認められる。

なお、環境影響評価書を作成するに当たっては、次に指摘する事項について留意するとともに、関係住民が一層理解しやすいものとなるよう努めるべきである。

【大気汚染】

大気質の濃度予測に当たっては、気象条件として、豊洲測定局における風向・風速の観測結果を用いているが、周辺における他の測定局と現地の気象調査結果との相関性の解析を行うなどし、必要に応じて予測の見直しを行うこと。

また、見直した際の予測結果について環境基準を超える場合においては、環境保全措置を徹底するなど、大気質への影響の一層の低減に努めること。

【騒音・振動】

1 建設機械の稼働に伴う騒音・振動については、計画地の敷地境界付近で建設機械が最も多く稼働する時点を予測・評価している。一方で、除去工事を含む工事工程となっていることから、施工方法及び使用する建設機械についても精査した上で、環境保全のための措置を十分に検討し、騒音・振動の低減に努めること。

また、当建替事業は、居住しながらの工事になるため、計画地内における影響についても配慮すること。

2 関連車両の走行に伴う騒音については、計画地南側走行ルートの方側に小学校、保育園があることから、地元区とも協議を行い、事業者として協力可能な環境保全のための措置を検討し、その内容を記述すること。

【地盤】

現況調査において、地下水及び地盤沈下の状況の調査を平成22年まで実施し、その経年変化についてグラフや表により示しているが、東日本大震災の発生による影響を把握するため、平成23年以降の地下水及び地盤沈下の状況についても、できる限り調査を実施し、その結果を追加すること。

【水循環】

計画建築物の周辺を極力緑化するとともに、雨水流出対策として浸透ますや浸透トレンチなどを設け、地下浸透に努めるとしていることから、これらについて具体的な内容や規模を明らかにすること。

さらに、現況と建替事業後における雨水流出抑制対策量について、水収支を比較検討することにより、定量的な評価を行うこと。

【風環境】

地域の風の状況について、豊洲測定局の観測結果を用いているが、周辺における他の測定局と現地の気象調査結果との相関性の解析を行うなどし、必要に応じて予測の見直しを行うこと。

【景観】

樹種の選定に当たっては、隣接する辰巳の森海浜公園との連続性など、地域の景観特性に配慮した計画とされていることや、可能な限り既存樹木の保全、または移植を図ることについて、具体的説明が不足していることから、分かりやすく説明すること。

【自然との触れ合い活動の場】

- 1 工事の施行中において、計画地から南側の辰巳団地内の敷地に仮設公園を整備するとしているが、計画の内容が不明確であるため、これを明らかにすること。
- 2 計画地周辺の辰巳の森海浜公園や辰巳の森緑道公園等との緑の連続性や歩行者ネットワークの形成に配慮していることから、このことについて分かりやすく説明すること。

【廃棄物】

- 1 アスベスト等特別管理廃棄物の取扱いについては、現況調査及び環境保全のための措置に記載されていることから、発生量及び処理の状況等について、今後の環境影響評価書等で明らかにすること。
- 2 建設廃棄物の種類別の発生量及び資源化量が示されているが、分別の困難が予想される廃棄物も含まれていることから、その資源化の方策について説明すること。